

アメリカ Case Western Reserve University における看護アセスメント学教育の受講を経験して

松尾 恭子 Kyoko Matsuo, MSN, RN

大分県立看護科学大学 専門看護学講座 成人・老人看護学 Oita University of Nursing and Health Sciences

2005年4月27日投稿, 2005年5月27日受理

キーワード

看護アセスメント学、カリキュラム、臨地実習、アメリカ合衆国

Key words

nursing assessment, curriculum, clinical practice, USA

1. はじめに

昨年(2004)アメリカのオハイオ州にある Case Western Reserve University の看護学部(以下、ケース大学)で、筆者が関心をもっている看護アセスメント学(Nursing Assessment)教育について学ぶ機会を得た。日本の今後の臨地実習のあり方を考える機会となったので報告する。

2. オハイオ州の看護学部の実習時間数

ケース大学看護学部における実習時間数は、4年間で1620時間(Case Western Reserve University 2004a)であり、実習にかなりの時間をさいている。オハイオ州で看護師の業務や看護学生に対する教育については、オハイオ州看護協議会(State of Ohio Board of Nursing)により定められており "Prelicensure Nursing Education Programs Leading to Licensure as a Registered or Practical Nurse" において看護教育についての規則が定められている。オハイオ州には23校(表1)の看護学部があり、大学教育における看護学の臨地実習の1校あたりの平均時間数は830.5時間(State of Ohio Board of Nursing 2003)であった。この平均からみると、ケース大学は約2倍の臨地

実習を行っている。実習時間の最低時間数に関しては、規則で定められていない。ちなみに日本の指定規則に定められている実習時間数は、23単位、1035時間(門脇 他 2004)である。

3. 講義と学内の技術実習と臨地実習の連動

ケース大学看護学部学士課程のカリキュラムを表2に示す。ここで、特筆すべきは、教室で行われる講義と実習室での技術教育、臨地実習が同時期に進行し、お互いに連動している科目が多いことである。講義・実習室での技術教育・臨地実習が連動して行われている科目を表2に赤字で示した。今回、筆者は、1年次後期(春学期)に行われているアセスメント学の講義・実習室での技術教育・臨地実習の全過程に参加した。

4. アセスメント学の教育

アセスメント学は、1年の春学期に集中的に3週間(2004年の7月26日~8月13日)行われていた。1年次の秋学期に臨床看護実践の基礎が終了しており、アセスメント学は、1年次後期の最後に行われる科目であった。この3週間の間に、教室での講義、実習室での技術の講義と実技、臨地実

習が行われていた。週間スケジュールを図1に示す。教室で講義を受けた直後に講義で受けた技術を実習室で学び、土日にホー

表1. オハイオ州の看護教育プログラム別の学校数 (State of Ohio Board of Nursing 2003改)

年度	プログラム	学士	準学士	専門学校
2002		23	29	8
2003		23	29	6

*この表には記載していないが、オハイオ州には、日本の准看護師教育に相当するプログラムや認定看護師のプログラムもある。

表 2. ケース大学看護学部の学士教育カリキュラム (Case Western Reserve University 2004b 改)

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位
秋 学 期 (前 期)	学問の基礎	1	成人看護学 I	5	両親と新生児の健康	4	看護の課題と倫理	2
	臨床看護実践の基礎	3	薬理学	2	小児と思春期の健康	4	看護情報科学	1
	生物学の原理	3	加齢と健康	2	基礎統計	3	広域保健	3
	解剖学と生理学	4	地域参加演習 II	1	地域参加演習 IV	1	地域看護学実習	5
	記述法	3	化学生物学	3	教養科目	3	保健看護学	3
	教養科目	3	教養科目	3				
	Total	17	Total	16	Total	15	Total	14
春 学 期 (後 期)	看護情報科学入門	2	医学微生物学	4	急性期看護 II	4	看護管理	3
	アセスメント学	3	精神医学 / 精神看護学	4	救急看護	4	老人看護概論と管理 *	9
	栄養学	2	学	5	看護研究	3	成人期の救急看護 II *	9
	分子生物学総論	3	成人看護学 II	5	地域参加演習 V	1	小児期の救急看護 *	9
	地域参加演習	1	地域参加演習 III	1	情報科学	2		
	教養科目	3	成長発達	3	教養科目	3		
	教養科目	3						
Total	17	Total	17	Total	17	Total	12	

* 選択科目

ムワークとして自主練習を重ね、課題毎のテストを実習室で受ける。このテストに合格しなければ、臨地実習でその技術を実施することはできない。

4.1 講義及び実習室

講義・学内実習・臨地実習は、それぞれ別々の教員が行っているが、講義を担当している教員がリーダーとなり総括していた。実習の過程で、わからないことや実習中の悩みなどがある場合は講義担当の教員にメールを送り、教員は次の講義のときにその質問に答えていた。このことが、講義と臨地実習でのつながりを深めていると感じられた。講義は、5回のテストを行い評価していた。講義の評価点が全体の50%を占めている。

実習室で行われる技術教育は、講義で学んだことを前提として教授するようにはなっていたが、中にはスケジュールの調整が困難な項目もあり、講義よりも先に教授することもあった。学生は、予習を行い講義中も学内実習中も積極的に質問し、意欲的に取り組んでいる姿勢が印象的であった。テストが繰り返されることや臨地の実践がすぐに行われるために、学生は常に能動的に学習している。また、LRC (Learning Resource Center) が実

習室の隣にあり、ここではパソコンを使って、点滴の滴下数の計算等のドリルを行っていた。実習室での評価は、アセスメント学全体の30%であった。

4.2 臨地実習

実習では、1病棟に学生8人が配置されており実習指導者が大学から1名指導にあたり、学生1人が患者1人を受け持ってケアを行う。実習指導を行っている教員は、患者に口頭で臨地実習の目的について説明を行ない受け持ち患者から口頭で了承を得ていた。オハイオ州看護協議会では学生の実習に対して、患者のインフォームド・コンセントに関する事、学生が行えることや行ってはいけないことについての規定 (State of Ohio Board of Nursing 2005) はあるが、患者に対して同意書は要求してはいない。そこで口頭での説明により同意を得ている。

受け持ち患者に対する看護の展開に関しては、入院期間が日本に比べて短いので同じ患者を連続して実習期間内に受け持つことは困難である。実習の開始の時間に病棟内のカンファレンスルームで朝のミーティングを1時間行い、実習指導を

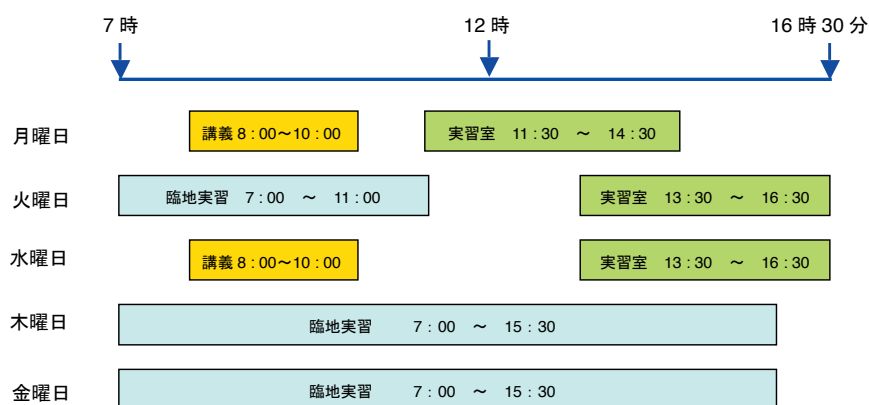


図1. ケース大学看護学部におけるアセスメント学の週間スケジュール

行っている教員が毎回のように新しい患者の説明を行っていた。カルテは電子カルテを使用しており、スタッフの看護師が毎日サマリーを記入しているので、日毎に受け持ち患者の変更があった場合にも学生は現在の患者の状況を容易に把握できるようになっていた。

今回参加した実習では、1週目はまだ講義が進んでいないため、前期の臨床看護実践の基礎で修得したバイタルサインを実施し、2週目からは実習室で技術チェックを受けたことを患者の同意を得て実施していた。

オハイオ州看護協議会では、責任の所在が明確に規定されている。看護学生の実習指導に関して「教員やインストラクターの指定した看護課題に関して1回のみ実行することができる」ことや「実地指導者は、2人の学生の実習を充分指導できるような状況でなければ、一度に2人以上の指導はできない」などと書かれた規定がある (State of Ohio Board of Nursing 2005)。実際に学生が患者にケアを行うときは、教員が直接指導を行っていた。実習は実際に行うケアの他に日々の記録があり、実習の評価は記録や行動を含めて20%であった。

5. 看護技術教育を大切にされた教育内容

このアセスメント学実習に参加している間に Academic Program の長である Dr. Narsavage と話を持つ機会を得た。そのときに、筆者は、ケース大学は臨床実習時間数が多いことや、実習が講義と連動している科目が多いことが印象的であったことを話した。Dr. Narsavage は、「臨床における技術教育を大事にしています。Skill is trust、正

確な技術を提供することによって人々の信頼を得られると考えています。」と話された。アメリカの社会における看護師の地位向上に対する努力や看護教育のアウトカムの一つとして、考えさせられる話を聞くことができた。

6. アセスメント学の実習に対する学生の感想

実際に実習しているケース大学の1年生の方々に実習についての感想を聞くことができた。「講義のテストも受けて、実習室のテストも受けて、土日はホームワークで学習して練習してくるので、毎日がすごくハードで疲れるけど、実習は困難ではありません。大丈夫です。」と話す学生が多かった。講義と実習の連動は、教育効果を高めると先行文献 (Petrini 2000) にはあるが、学生に対する自己効力感を伴うことも実感できる機会となった。

7. おわりに

アメリカと日本の看護教育の歴史、実習施設と大学との違いなどを考えると、直ちにアメリカの教育システム導入することは難しいとしても、学生がもっと効力感の持てる教育カリキュラムを構築することは、どこの国の教育者も同じではないかと考える。学習環境は、それぞれの国や学校で様々であるが、理解しやすい教授方法を開発し探求していくことが、大学としての責務である。

引用文献

Case Western Reserve University (2004a). Bachelor of science in nursing (BSN). <http://fpb.cwru.edu/BSN/index.shtml>

Case Western Reserve University (2004b). Bachelor of science in nursing (BSN): Course curriculum. <http://fpb.cwru.edu/BSN/curriculum.shtml>

門脇豊子, 清水嘉代子, 森山弘子 編(2004). 看護法令要覧平成16年度版, pp82-113. 日本看護協会出版会, 東京.

Petrini MA (2000). アメリカにおける看護学以外の
の学士号取得者向けの集中型看護教育プログラム
-学部教育レベル. *Quality Nursing* 6, 551-567.

State of Ohio Board of Nursing (2003). Annual
reports from Ohio prelicensure nursing education
programs executive summary June 30, 2002
through July 1, 2003. pp2-5. <http://www.nursing.ohio.gov/pdfs/AnnualExecSummary.pdf>

State of Ohio Board of Nursing (2005). Chapter 5
Prelicensure Nursing Education Programs Leading
to Licensure as a Registered or Practical Nurse,
adopted Law and Rules. pp29-37. <http://www.nursing.ohio.gov/pdfs/NewLawRules/CHAPT-5.pdf>



著者連絡先

〒 870-1201

大分市大字廻栖野 2944-9

大分県立看護科学大学 成人・老人看護学研究室

松尾 恭子

matsuo@oita-nhs.ac.jp